

【学生フォーラム】

藤川地域の子供たちと連携した創造型ものづくり教育の実践

愛知産業大学 造形学部建築学科 佐藤衣純

要旨

愛知産業大学では地域と連携した「地域創生科目」を新たに導入し、令和3年度より「地域クリエイションワーク」を開講致しました。この科目は建築、スマートデザイン、総合経営の3学科の3年生が対象です。「子供の夢を叶える」というテーマのもと、ものづくりを通して学生と地域の相互交流や地域貢献を図る狙いがあります。開講したばかりの本科目を昨年受講し、今年はアシスタントとして参加した立場から、本科目の取り組みや今後の展望について発表します。

1. 制作について

1) スケジュール

令和4年前期の週1コマ、計15回の授業の中でガイダンス、アイデアスケッチ、ワークショップを各1回、作品の検討を3回、試作品の制作を2回、中間報告を1回、作品の制作を5回、制作発表を1回、加えて10月29日、30日の大学祭での作品体験というスケジュールで行われました。ワークショップでは藤川学区こどもの家を利用する子供たちに「どんな木のおもちゃがあったらワクワクするか」を想像しながらスケッチを描いてもらいました。

2) 制作機械

制作はモデリングスタジオという木工機械が充実した部屋で行われました。学生たちは木材の切断やくり抜きができる糸のこ盤、穴を開けることができるボール盤、球状に削ることができる木工旋盤、切り口を滑らかに仕上げることができるベルトサンダー、角を丸く削ることができるトリマーという機会を使用して形を作り上げていきます。それらでは行えない加工は、技術指導員のみが使用できる木工機械で加工を施していきます。

3) 作品説明

子どもたちのスケッチを参考に案を練り、12名の学生が3チームに分かれ3作品の制作を行いました。

a) コロコロ迷路

大きさが異なる直方体や立方体の積み木を自分の好きな形に積み上げることができます。また、積み木には穴が開いていたりレールのような溝があるので、組み合わせ次第でビー玉を転がすおもちゃを作ることができます。

b) ゴールできるかな？

黒板を小さくしたような見た目の板とビー玉の通り道となる木材が磁石でくっつきあい、自分の好きなコースを作ることができます。板に傾斜をつけることでビー玉が転がるようになっています。取り外し可能な2つの歯車がコースの自由度をより高めています。

c) 動物いっぱいバランスゲーム

グラグラ揺れる台の上にブロックを乗せ倒れたら負けというゲーム性のあ

るおもちゃです。ブロックを乗せるフィールドは 3 種類あり、1 番下の段は海のフィールドで魚やアヒルのブロック、真ん中の段は地上のフィールドで人や猫、一番上の段は空のフィールドで鳥など、様々なブロックを乗せることができます。



2. 振り返り

1) 改善点

a) スケジュールの再調整

学生に行ったアンケートの結果、地域とのつながりについて考えるようになったという学生が 4 名と少なく、その要因は子供たちに作品で遊んでもらう前にアンケートを実施してしまったことだと考えられます。また、大学祭が土日で開催され任意参加であったため、自分の作品で遊んでもらうという経験をしていない学生もいます。自分の作品を実際に使っているところを見る機会は貴重なものであるため、スケジュールの再調整が必要だと考えました。

b) 地域の木材について知る

作品案をまとめることに時間をかけた結果、木材の調達の際にデザイン性や機能性については考えるものの、どこの木材を使うかは重視することができていませんでした。岡崎市の森林資源についての学習をカリキュラムに組み込むことで地域や木材に対しての理解がより深まると考えました。

2) 所感

a) 予想以上の子供たちの木のおもちゃに対する興味

スマホやゲーム機で遊べる環境が身近に増えた現代の子供たちには木のおもちゃでは物足りなく感じるようになっていました。しかし、大学祭で遊んでくれた子供たちは最低でも 30 分、長い子だと 1 時間を超えて 1 つのおもちゃで遊び続けていました。なかには新たな遊び方で遊んでいる子もいました。このことから子供たちの集中力の高さと柔軟な発想に驚かされました。またこの授業ではターゲットに思い通りに使用してもらうものづくりの難しさも感じることができると思いました。

b) 広がるつながりの可能性

この授業を通して、今ある地域とのつながりだけでなく新たなつながりを生み出すことができると感じました。例えば学生と一緒にものづくりをしたり、地域の方々と一緒に岡崎市の森林資源について考えるなど、つながりはいくらかでも生み出すことができます。このようなつながりが地域の安心感の増強や活性化などのきっかけになれば、さらに意味のある授業になるのではないかと思います。

謝辞

アイデアスケッチを描いてくれた子供たち、大学祭に遊びに来てくれた子供たち、ワークショップにご協力頂いた岡崎市こども部こども育成課、藤川こどもの家の指導員の方々に深く感謝いたします。